

9月20日「弱さを通した道」 I ペトロ 2：11～25

今日は高齢者祝福式ということで多度津教会では80歳以上の方を高齢者として祝福します。大勢の高齢の方と一緒に信仰生活を送ることが出来る恵みを心から感謝します。『祈ろう四国教区の教会』などの祈りの課題を見ていると、定型句のように「教会も高齢化が進み・・・」とあります。まるで高齢化が悪いことのように！？確かに、以前出来ていた活動が出来なくなったり、体力が衰えてきたりと厳しい面もあることでしょう。けれども、日本の教会が高齢化しているということは、それだけ長い期間、信仰者としての歩みを続ける方が多いということです。これは香港に研修で行った時に聴いた話ですが、香港のメソジスト教会は急成長を続けていて、毎年大勢の若者が洗礼を受けます。当然平均年齢もぐっと低いのですが、同時に長く教会の留まる者は限定的なことが課題とされていて、多くの若者たちが数年単位で教会を去っていくそうです。ですので、高齢化も神さまからの祝福の一つだと私は受け取っているのですが、いかがでしょうか？

そんな今日、テキストに選ばれているのはペトロの手紙です。キリスト教がローマ帝国で禁止され迫害されていたことは知られていますが実は教会は出発時点から周囲からの差別や偏見、迫害にさらされていたのです。礼拝を重んじ、倫理的で周囲からは堅苦しく見える生き方や、唯一の神以外に信仰しない姿勢が「迷信家」「秩序や法を乱す者たち」「皇帝に忠誠を誓わない者」などの誹謗中傷を呼びました。ペトロの手紙は諸説ありますが、そのような苦難の状況にある人たちを励ますために書かれたようです。「11節 愛する人たち、あなたがたに勧めます。いわば旅人であり、仮住まいの身なので、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。また、異教徒の間で立派に生活しなさい。」キリストへの信仰に無理解で差別や偏見を押し付ける周囲の人々、その中で悩み、葛藤しながらも生活続ける人々に、悪に対して悪で手向かってはならない。悪にも善で報いるように、そんなことを伝えます。「そうすれば、彼らはあなたがたを悪人呼ばわりしてはいても、あなたがたの立派な行いをよく見て、訪れの日に神をあがめ

るようになります。」そうしていれば、「訪れの日」つまり最後の審判、終末の時には分かってもらえるだろうと言うのです。少し気の長いような気もしますが、これはイエスが言われたことを思い出させます。「マタイ5:16 あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」弱くて小さい私たち、罪深い私たちを「世の光」と呼んで、自信をもって生きるように励まされたイエスの言葉です。この手紙は、キリスト教に理解のない日本の社会で信仰生活を送る私たちのために書かれた手紙のようにも思えます。

とても素敵な手紙のようにも思えますが、今日の箇所は一方で議論を呼ぶ言葉でもありました。「13節 主のために、すべて人間の立てた制度に従いなさい。」「18~19節 召し使いたち、心からおそれ敬って主人に従いなさい。善良で寛大な主人にだけでなく、無慈悲な主人にもそうしなさい。不当な苦しみを受けることになっても、神がそうお望みだとわきまえて苦痛を耐えるなら、それは御心に適うことなのです。」

お分かりになったでしょうか？つまり地上の権威に従えと言うのです。これは本当に危険です。例えば、ジョン・ニュートン（アメイジンググレイスの詩を書いた牧師）がイギリスの奴隷制度撤廃に大きく貢献したように、あるいはキング牧師が公民権運動を率いたように、イエスの教えには社会の誤った制度や在り方を変革していく力があります。それは、先ほども語ったようにイエスが罪人と蔑まれ、この世界で小さくされていたすべての人たちを愛し、赦し、その人たちこそ「世の光だ」と語ったことに由来します。御言葉には社会を変える力があるのです。けれども、人間の造った制度や人間の主人に服従するように伝える今日の言葉は、一步間違えるとこの世の不当な制度や支配体制を一切批判せず、むしろそれらを温存させるために、苦しみ、抑圧を受けている人々に一方的な忍耐と従順を強制させるように、悪用される危険性をはらんでいます。実際、ドイツのヒトラーや、イタリアのムッソリーニ、強権的で独裁的な政権はキリスト教国で生まれ、それを陰で支えたのは権威に従うことを「是」とするキリス

ト教の思想だったことも指摘されています（WCC 世界キリスト教協議会などはその反省から始められた）。ですから、今日の御言葉には注意深く耳を澄ます必要があります。

今日の御言葉で手紙の書き手は、なぜ私たちに地上の制度や権威に従うように勧めるのでしょうか。それは私たちキリスト者はそういったものに縛られない、実は全く自由な存在であるからです。「16～17 節 **自由な人として生活なさい。しかし、その自由を、悪事を覆い隠す手だてとせず、神の僕として行動なさい。すべての人を敬い、兄弟を愛し、神を畏れ、皇帝を敬いなさい。**」私たちキリスト者には自由があります。それも本当に大きな自由です。たとえ、周囲の人たちに理解されなくたって、差別されたり、迫害されたとしても、その人たちをも愛する自由です。イエスは「敵を愛しなさい」と教えられました。たとえ、世が暗くて全く希望が見えなくとも諦めない自由です。イエスは「求めなさい、そうすれば与えられる」と教えられました。たとえ、今傷つき、ボロボロになったとしてもという希望を失わないという自由です。イエスが十字架の死から復活されたからです。そして、たとえ世の支配者がどれほど強くて抗いがたい存在に思えても、「人」には従わないという自由です。私たちの主人は、人としてこの世界に来られた生ける神の御子イエス・キリストただ一人だからです。25 節はそのことを伝えます。「25 節 **あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。**」

今日の御言葉を理解するのに、宗教改革者ルターは本当に意味のある言葉を残してくれています。「キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な君主であり、すべてのものに奉仕する僕である。」私たちはたとえどんなことがあっても神と隣人への奉仕に生きるという意味であらゆる世の制度からは全く自由なのです。そして世の支配者からも全くの自由です。私たちの魂はただ一人、イエス・キリストのみにとらえられているからです。

今日は高齢者祝福式です。もちろん長寿を祝うわけですが、教会の高齢

者への祝福は単なる長生きを祝うのではありません。お一人お一人が長い期間、教会に連なり続け、神の祝福から離れなかったことをお祝いします。また、今日のペトロの手紙にあったように、キリスト教への理解が全くない日本において信仰を保ち続けることは至難の業です。それでもここまで守り通してこられた高齢の方の信仰に私たちは多くのことを学びます。家族や周囲の人に信仰を受け入れられなかった時、周囲との違いに葛藤したとき、時には信仰を罵られたり、蔑まれたりしたとき、人生の様々な困難にあっても、弱さを覚えた時に誰を見上げることによって「生きる力」を得てこられたか、そこに私たちの教会の力の源泉があるのです。本当に今日の日を高齢の方々と共に守れる礼拝を喜ばしく思う。「**あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。**」今日も私たちが養い、守る羊飼いが共におられます。だから、私たちは何者からも自由に生きられるのです。だから私たちは隣人を愛し、隣人に仕える自由の道へと遣わされるのです。